

ワークショップ1 (D会場)

『英語の授業もユニバーサルデザインに』

松田 泰生

(旭川市立向陵小学校)

1. はじめに

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)のことです。

筑波大学附属小学校の桂教諭は「授業のユニバーサルデザイン化」を提唱し、①授業を焦点化(シンプルに)する、②授業を視覚化(ビジュアルに)する、③授業で(授業技術を)共有化(シェア)する、ことが必要であるとおさえています。

「授業のレベルを落とすのではなく、本質的にする」という点で、英語の授業においてもこの考えが当てはまると考えます。

2. 本校における自閉症・情緒障害学級(通称:チャレンジ学級)の様子

○在籍数:17名 担任:3名

○障害の状況…広汎性発達障害、ADHD、軽度知的障害、協調性運動障害など

○午前または午後3時間、チャレンジ学級で、①運動、②小集団活動、③個別学習を行っています。在籍児童は17名ですが、学級にやってくる回数は週に1~3回と児童によって異なり、その組み合わせは障害の程度や学年で毎日変わります。本学級では、小集団活動の一つとして英語活動を比較的に情緒が安定しているグループ(4年1名、6年3名)に取り入れられました。

3. これまで実践したアクティビティ例

○ Mr.Coneがやってきた(わくわく英語タイム:光村図書)

・Hello. My name is~. Nice to meet you.I like~.

○ ジェスチャーをしよう(英語ノート1:文部科学省)

・Hello song

○ I like Pizza(デジタル掛図:東京書籍)

・英文の聞き取りクイズ、Hot potato

4. 小集団活動に英語を取り入れてみて

○ パソコンを用いたデジタル教材を使うことで視覚に訴えることができたり、自分で操作をする楽しみがあったりなど、児童の英語に対する興味を喚起することができました。4年生の児童には難しいかと思われましたが、デジタル教材に出てくるキャラクターを気に入りと、難しい単語(キャラクター名)をすぐに覚えていました。

○ 「だから○○って言うんだ~」など、学んだ言葉やフレーズが、身の回りの生活の中にあることに気づき、より英語を吸収しようとする意欲を高めることができました。

○ 会話練習や動作を伴った歌などを通して、これまであまり多くなかった異学年でのグループ内交流を深めることができました。

○ 意外な単語やフレーズを知っていたり、発音の模倣が上手だったりなど、これまで気づかなかった子どもの特性を指導者が見出すことができました。